

6 超音波センター



超音波指導医・専門医、超音波検査士が中心となり各科主治医と連携し、的確で迅速な診断を目指している。緊急検査に対しては即日対応、紹介患者に対しては各診療科と連携するなど、院内外にわたり臨機応変に対応している。また、超音波センターは腹部造影超音波検査数が国内でも有数であるが、この超音波造影剤にはほとんど副作用がないので、CTやMRIの造影剤が使用困難な腎障害患者に対しても、高い空間・時間分解能で腹部腫瘍などの適切な診断が可能である。更に、平成24年から線維化進展度診断を可能とする肝硬度を非侵襲的に計測しているが、この肝硬度測定検査が新たに保険適応となり、注目を浴びており、症例数も世界有数となっている。さらには超音波減衰法を用いた脂肪肝診断、造影超音波を用いた非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）診断や肝細胞癌の治療効果判定、肝障害度評価にも積極的に取り組んでいる。特に、この数年は肝硬度、乳腺検査、下肢動静脈等、血管検査件数のニーズの増加も著明であり、施行件数も年々増加している。

6-1 年度別超音波検査件数 (件)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	29年度 構成比率 (%)
入院	9,718	10,812	10,524	10,313	10,214	26.2
外来	25,051	26,033	26,675	27,522	28,828	73.8
合計	34,769	36,845	37,199	37,835	39,042	100.0

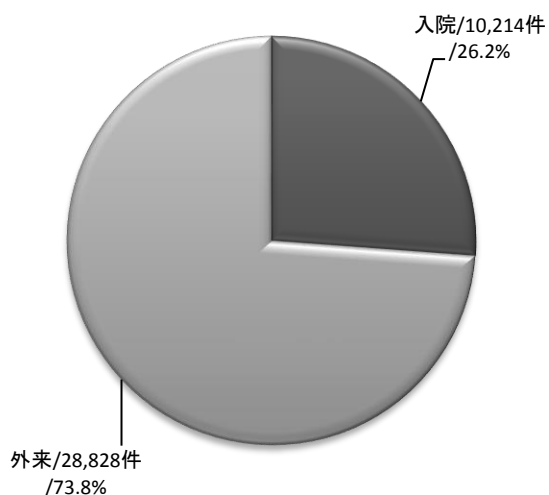
6-2 年度別超音波検査入院外来別点数 (点)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	29年度 構成比率 (%)
入院	8,501,690	8,895,790	9,000,490	8,881,070	8,104,900	31.1
外来	19,003,530	16,826,100	16,614,020	17,070,250	17,917,760	68.9
合計	27,505,220	25,721,890	25,614,510	25,951,320	26,022,660	100.0

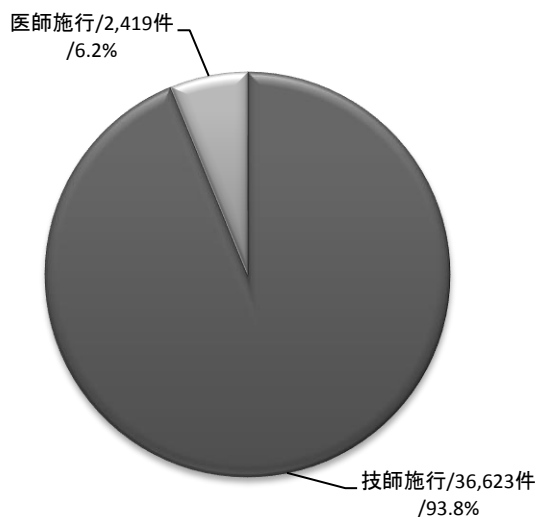
6-3 年度別超音波技師・医師別施行数 (件)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	29年度 構成比率 (%)
技師施行	31,459	34,796	35,395	35,149	36,623	93.8
医師施行	3,310	2,049	1,804	2,686	2,419	6.2
合計	34,769	36,845	37,199	37,835	39,042	100.0

6-4 29年度超音波検査件数の構成比率 (合計39,042件)



6-5 29年度超音波技師・医師別施行件数の構成比率 (合計39,042件)



6-6 年度別超音波検査別件数

(件)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	29年度 構成比率(%)
心エコー	11,586	12,239	11,835	11,719	11,489	29.4
経食道心エコー	276	382	386	562	570	1.5
負荷心エコー	4	4	1	12	12	0.03
胸腹部	10,459	10,575	10,738	10,844	11,160	28.6
(ドブラ)	(4,305)	(4,766)	(4,976)	(5,120)	(5,700)	
甲状腺・頸部	1,191	1,056	1,175	1,162	1,152	3.0
(ドブラ)	(154)	(140)	(183)	(246)	(293)	
乳腺	1,963	2,083	2,188	2,274	2,598	6.7
(ドブラ)	(15)	(6)	(10)	(17)	(64)	
表在	3,196	3,706	3,970	4,157	4,469	11.4
(ドブラ)	(3,113)	(3,604)	(3,846)	(3,948)	(4,165)	
頸動脈	1,625	1,804	1,830	1,815	1,945	5.0
(ドブラ)	(1,625)	(1,804)	(1,830)	(1,815)	(1,945)	
肝硬度	2,807	3,427	3,617	3,882	4,332	11.1
生検	520	431	454	376	346	0.9
RFA・その他処置	111	119	72	80	60	0.2
造影	1,031	1,019	933	952	909	2.3
合計	34,769	36,845	37,199	37,835	39,042	100.0

6-7 超音波検査別件数の年度別推移

(件)

